

(端裏書)

「大九右衛門様 田曾兵衛」

此間者御出被下忝仕合

夫より御手紙被下、御書付も

致熟覽候、至極可然

奉存候、私存寄計ニても相

済不申ニ付、内々外ニへも

見せ申候、早々可致返を

之處ニ彼是取□候内

相延申候、漸々今朝罷越

尚又内々申置候、此段者

面上可得御意候、先此通

御認被成候付御出し被成、度々

□□□、御為第一之儀

御調被成候義第一ニ而御座候

少し計存寄致加入置候

都合宜敷所へ御加入被

成間敷候哉、ケ様之書付

氣味相ニの御当地ニ而も

段々与近年御評義之

御□候義、依之のろ／＼と

相□候事ニて無御坐候

追々御談し可申、先急々

如此御坐候、以上

五月十七日